

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	五十嵐良典教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Yoshinori Igarashi
作成者（著者）	松田,尚久
公開者	東邦大学医学会
発行日	2022.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 69(1). p.9 9.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021_052
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD38688545">https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD38688545</a>

# 五十嵐良典教授送別の辞

松田 尚久

東邦大学医学部内科学講座消化器内科学分野（大森）

五十嵐良典教授は、令和4年3月31日をもちまして東邦大学医学部内科学講座消化器内科学分野（大森）教授を定年退職されます。先生は昭和56年3月に東邦大学医学部を卒業され、東邦大学医学部内科学第3講座で研修医をされました。昭和58年11月から同講座の研究生として消化器病学を専攻され、昭和59年10月から1年間、県立がんセンター新潟病院にて内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）や内視鏡治療を研修、昭和62年11月からは東京共済病院内科に出張され、昭和64年1月に東邦大学医学部内科学第3講座助手となりました。平成3年5月から1年間日産厚生会玉川病院内科に出張され、平成4年5月復職後、平成7年2月に東邦大学医学部内科学第3講座講師となりました。その後、平成14年7月より東邦大学医学部内科学第1講座講師に移籍、平成15年6月より東邦大学医学部内科学講座（大森）消化器内科講師となられ、平成16年6月より東邦大学医療センター大森病院の内視鏡部部长、平成17年7月より東邦大学医学部内科学講座（大森）消化器内科助教授、平成19年4月より東邦大学医学部内科学講座（大森）消化器内科准教授、同年12月に東邦大学医学部内科学講座（大森）消化器内科教授（病院）、平成27年1月に東邦大学医学部内科学講座消化器内科学分野（大森）教授となりました。平成29年4月からは、東邦大学医学部内科学講座消化器内科学分野（大森）の主任教授として講座責任者に就任され、長年にわたり東邦大学消化器内科の発展のため臨床・研究・教育に邁進されました。

五十嵐教授は、消化管・膵胆道疾患の内視鏡診断・治療において多くの功績を挙げられました。その中でも、膵管ステントの開発と内視鏡的膵管ステント留置術（EPS）の保険認可に際しては中心的な役割を果たされました。さらに、十二指腸乳頭部腺腫に対する内視鏡的切除術、膵石症に対する体外衝撃波結石破砕術（ESWL）および内視鏡的除去術、親子式ファイバーによる胆道・膵臓がんの部位診断など、先進的な技術の開発と普及に尽力されました。膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）に対する経口膵管鏡（POPS）

や管腔内超音波検査（IDUS）を用いた内視鏡診断に関する研究では、平成16年度日本消化器内視鏡学会学会賞を受賞されています。約15年間にわたり、学内最大の医局である消化器内科の教授として「より良き臨床医の育成」に最大限の力を注がれ、若手医師の学位論文も数多くご指導されました。学会活動におきましても、日本消化器関連学会機構（JDDW）理事、日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本胆道学会、日本膵臓学会、日本高齢消化器病学会をはじめ消化器内科関連学会の理事、監事、評議員、各種委員を務められ、消化器内科学の発展に励まれたことは万人の認めるところです。平成30年5月には、「消化器内視鏡を追究する—基本から最先端まで—」をテーマに第95回日本消化器内視鏡学会総会の会長を務められ、約7,000名が参加する盛会となりました。海外研究医師の受け入れも積極的に行われ、中国・韓国・ベトナム・キューバをはじめとした多くの内視鏡医の教育に力を注がれました。また、医学部運営につきましても、平成30年9月より東邦大学理事、評議員として尽力されました。東邦大学医療センター大森病院におきましては院長補佐として9年間、また平成30年7月より副院長を歴任され、診療科間および地域医療との連携強化や新型コロナ対応など病院運営に多大な貢献をされました。

私は令和3年7月より、五十嵐教授と一緒に仕事させていただきました。総勢80名の医局員を完全に把握され、タテ・ヨコのコミュニケーションを重視されながらの熱心なご指導、学生に対する懇切丁寧なご指導、一人ひとりの患者さんのニーズに合わせた柔軟かつ適切な診療、メディカルスタッフに対するきめ細やかな対応など、先生から学ばせていただくことばかりです。

五十嵐教授のこれまでの功績の紹介は尽きませんが、定年ご退職に際しまして、消化器内科教室員一同、長年のご指導に心より感謝申し上げますと共に、五十嵐教授の今後のご健康とご活躍をお祈りして送別の辞とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。